

## 水の文化書誌 32

# 《東日本 名水の旅へ》



### 古賀 邦雄

こがくに  
古賀河川図書館長  
水・河川・湖沼関係文献研究会

1967年西南学院大学卒業  
水資源開発公団（現・独立行政法人水資源機構）に入社  
30年間にわたり水・河川・湖沼関係文献を収集  
2001年退職し現在、  
日本河川協会、ふくおかの川と水の会に所属  
2008年5月に収集した書籍を所蔵する  
「古賀河川図書館」を開設  
URL: <http://mymy.jp/koga/>

昨今、水に係る百選シリーズが人気を呼んでいる。昭和60年環境庁による「日本名水百選」を端緒に、平成21年環境省による新たな「平成の名水百選」、平成8年国土庁による「全国水の郷百選」、平成17年農林水産省による「疏水百選」及び平成22年「ため池百選」である。

環境庁は、清澄な水の再発見を第一の目的として、水質の保全の意欲を呼びおこし、水資源、水環境の積

極的な保護への参加を期待して、百の名水を選定したとある。選定基準は水質、水量、周辺環境。親水性の観点から、地域住民による保全活動が重要視された。このような水の百選が選ばれる背景には、高度経済成長により、私たちが水の歴史と文化を疎かにしてきたことを反省し、自然の再生を願った心情の表われがある。以下、東日本の名水を追ってみよう。

### 1 北海道の名水

（社）日本の水をきれいにする会編『名水百選』（ぎょうせい 1985）、カルチャーブックス編集部編『日本列島百名水』（講談社 1991）には、100の名水が選定されている。

北海道では、羊蹄山が80年の歳月をかけて濾過した「羊蹄のふきだし湧水」、稚内の西方52kmに浮かぶ利尻島の裾野の名水「甘露泉水」、湖底に染みこんだ支笏湖の水が森林に湧きだし内別川となる「ナイベツ川湧水」の3カ所が選ばれた。（社）日本の水をきれいにする会編『平成の名水百選』（ぎょうせい 2009）では、ミネラルを含む毎分4600ℓの水量を誇る上川郡東川町の「大雪旭岳湧水」、「仁宇布の冷水と十六滝」が選ばれている。仁宇布の地名はアイヌ語で森林を意味するという。それぞ

### 2 東北の名水

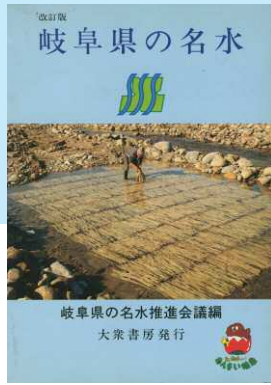
青森県では、津軽藩の御用紙を漉いた弘前市紙漉町の「富田の清水」が選ばれた。岩手県に入って松尾村・八幡平の日量11万㎡の「金沢清水」、岩泉村の「龍泉洞地底湖の水」があり、岩手日報社編・高橋正也著『いわて源流紀行』（2004）には、薬師岳を源とする猿ヶ石川、早池峰山の閉伊川、焼石連峰の胆沢川等が掲載されている。宮城県では杜の都仙台市の「広瀬川」、お茶用の水として親しまれている高清水町の「桂葉清水」があり、この清水では古式ゆ

かしい水琴窟の音色を聞くことができる。

秋田県では、湯沢城址古館山の麓に湧く「力水」、杉の根元から湧く湯沢市の「しず台の清水」、大小60余りの湧水に恵まれた六郷町の「六郷湧水群」があり、昔は飲料水に使われていたが、現在もコンクリートと石垣で整備され野菜洗いや洗濯用に使われている。山形県では、乱川扇状地の東根市の「小見川」、西川町には万年雪からつくられたミネラルウォーター「月山山麓湧水群」がある。福島県では、「御滝神社湧水（国見町）」、「弘法の清水（桑折町）」、「小野川湧水（北塩原村）」、「磐梯西山麓湧水群（磐梯町）」がある。なお、歴史春秋社編・発行『ふくしまの名水』（2000）には「伊達輝宗公御膳清水」、「美坂高原の清水」などを収録。ふくしま自治研修センターシンクタンク「ふくしま執筆『ふくしま湧水物語』（福島民報社 2003）には、「夢見乃清水」、「餅井戸清水」などを掲載。

### 3 関東の名水

茨城県では、化石昆虫ムカシトンボが生息する大子町の「八溝川湧水群」、勝田と水戸の市街地に挟まれた水田地帯の「加波山瀧」、水戸藩主の茶会に使われた偕楽園の湧水「吐玉泉」が選定されている。栃木県では日光二荒山神社の湧水「二荒霊泉」、石灰岩の山からの湧水「出流原弁天池湧水」が著名である。群馬県に入って、蜚が乱舞する鳴沢川の東村の「箱島湧水」、甘楽町の「雄川堰」、北橋村の「湧玉」が選ばれている。月



半世紀後の読者をも見据え、人知れず消えてゆく都心と郊外の名水と名井を記録。

「新・東京の自然水」(農文協 1992)の書がある。千葉県では、長南町の「熊野の清水」があり、福島茂太文「常磐線沿線の湧水」(岩書房 2000)は、松戸市の「幸田湧水、柏市の「名戸ヶ谷湧水」等を追っている。神奈川県では、「秦野盆地湧水群」がみられる。

結ぶトンネル工事により、湧水が噴出した。剣岳に抱かれた山間に湧く上市町の「穴の谷の霊水」、夏には瓜が割れるほど冷たい庄川町の「瓜裂の清水」、魚津駅前うまい水、黒部市、入善町の「黒部川扇状地湧水群」の水は冬温かく、遊離炭酸が多いため、喉越しが爽やかである。地酒「幻の瀧」に使用され、豆腐作り、また蒸気機関車の給水にも利用された。森清松著「とやまの名水めぐり」(北国新聞社 1989)は、「十二貫野用水」、「石倉町の延命地蔵の水」など55カ所を訪れ民俗、伝統行事を著す。石川県では、全国でも珍しい「水鳥越村の「弘法池の水」がある。この湧水で仕込む高級酒「弘法の酒」は地元で大人気である。聖武天皇東宮の病氣治療に使われた田鶴浜町の「みたらしいけ」、仏前の献茶用に使用された門前町の「古和秀水」の名水は曹洞宗の大本山総持寺から2.6kmの所にある。

福井県も名水が多い。小浜市では、お水送りとお水取りの神事を司る「鶴の瀬」は、この水が地下水脈を通り東大寺「若狭井」に至ると信じられている。昭和24年雲城高等学校の同窓生が母校を偲び30m掘り抜き井戸を造成した「雲城水」は、道路脇の井戸から24時間清らかな水が溢れ出る。「滝の清水」は後瀬山の西麓の湧水で近隣数百軒の命の水である。小浜市内を流れる南川の上流、和多地区山間部は、若狭紙と呼ばれる手漉き和紙の産地である。着物を包む畳紙や染め紙の原紙、傘紙などとして1200年以上の歴史があると言

われている。大野市の「御清水」、上中町の「瓜割ノ瀧」も選ばれている。長野県もまた名水が多い。豊科町の「安曇野わさび田湧水群」は、日量70万m<sup>3</sup>の豊かな水でわさびが栽培されている。松川流域に湧く飯田市の「猿庫の泉」は江戸期の茶人・不藏竜溪が探してたという。大桑村の「阿寺川」の水で顔を洗うと美人になるといふ。白馬村の「姫川源流湧水」は、湧水の辺に福寿草や片栗やバイカモが咲く桃源郷の地である。「水神信仰と八方池への雨乞い」などを綴るのは、関川姫川水百選選定委員会編「川は生きているー関川姫川水百選」(北陸建設弘済会 1996)である。山梨県では、富士山の万年雪が伏流水となって湧く忍野村の「忍野八海」。日量23万m<sup>3</sup>の清浄な水である。白州町の「白州・尾白川」は、釜無川に合流する14kmの河川。尾白溪谷、千ヶ淵、旭滝、百合ヶ淵と名所が続く。長坂町、小淵沢町の「八ヶ岳南麓高原湧水群」は3カ所の湧水をつくり出す。その一つの「三分一湧水」は三角石柱で流れを分け、三つの村に等しく配水している。この地を治めた武田信玄による分水方法といわれる。

岐阜県は海がなく山水に恵まれている。美濃市の長良川中流域では、鶴飼が行なわれる。養老町に行幸した元正天皇は、万病に効き若返りの水「養老の滝・菊水泉」に因み年号を養老に改めた。泉はミネラルを含む良質の水のため、江戸期に薬湯、明治期に炭酸水に使用された。至るところから水音が聞こえる郡上八幡

の「宗祇水」は、各家で水舟と呼ばれる水槽に引き込み生活用水に利用している。岐阜県の名水推進会議編「岐阜県の名水」(大衆書房 1988)は、「垂井の泉」や雨乞いの「夜又が池」など50カ所の名水を収録する。愛知県では、可児川と木曾川との合流点である中流域(犬山市)は、日本ラインと呼び慣らわされる景勝地。愛知用水事業などで農業用水、水道用水、工業用水に利用されている。静岡県では、富士山の伏流水日量100万m<sup>3</sup>の湧水の清水町の「柿田川湧水群」は、三島町、沼津市32万人の命の水となっている。静岡新聞社編・発行「静岡県の湧き水100」(2002)は、愛鷹神社、羽衣の湧水池などを載せる。

以上、東日本の名水について述べてきたが、これらの名水から日本の文化と歴史が見えてくる。

弘前市の「富田の清水」は、津軽藩の御用紙を漉いたこともあったが、廃藩とともに斜陽化して今では一軒も残っていない。茨城県大子町の「八溝川湧水群」は五水と呼ばれる湧水で、徳川光圀によって「金性水」、「龍毛水」、「白毛水」、「銀性水」、「鉄水」と命名されており、歴史を感じ

る。石川県の「古和秀水」は仏前の献茶用に用いられ、宗教と茶道に伴う文化が横たわる。名水は、それぞれの地域住民たちの清らかなコミュニケーションによって大切に護られ、それは未来へとつながる。次号では、西日本の名水を旅する。

杖を突いたら水が湧き出たという。安産の神、胞姫神社が近くにある。

富山県も水に特に恵まれている。立山町の「立山玉殿の湧水」は標高2992m、立山連峰の主峰雄山直下に湧く水、登山者や観光客に大人気である。昭和43年室堂と大観峰を

結ぶトンネル工事により、湧水が噴出した。剣岳に抱かれた山間に湧く上市町の「穴の谷の霊水」、夏には瓜が割れるほど冷たい庄川町の「瓜裂の清水」、「魚津駅前うまい水」、黒部市、入善町の「黒部川扇状地湧水群」の水は冬温かく、遊離炭酸が多いため、喉越しが爽やかである。地酒「幻の瀧」に使用され、豆腐作り、また蒸気機関車の給水にも利用された。森清松著「とやまの名水めぐり」(北国新聞社 1989)は、「十二貫野用水」、「石倉町の延命地蔵の水」など55カ所を訪れ民俗、伝統行事を著す。石川県では、全国でも珍しい「水鳥越村の「弘法池の水」がある。この湧水で仕込む高級酒「弘法の酒」は地元で大人気である。聖武天皇東宮の病氣治療に使われた田鶴浜町の「みたらしいけ」、仏前の献茶用に使用された門前町の「古和秀水」の名水は曹洞宗の大本山総持寺から2.6kmの所にある。

福井県も名水が多い。小浜市では、お水送りとお水取りの神事を司る「鶴の瀬」は、この水が地下水脈を通り東大寺「若狭井」に至ると信じられている。昭和24年雲城高等学校の同窓生が母校を偲び30m掘り抜き井戸を造成した「雲城水」は、道路脇の井戸から24時間清らかな水が溢れ出る。「滝の清水」は後瀬山の西麓の湧水で近隣数百軒の命の水である。小浜市内を流れる南川の上流、和多地区山間部は、若狭紙と呼ばれる手漉き和紙の産地である。着物を包む畳紙や染め紙の原紙、傘紙などとして1200年以上の歴史があると言

われている。大野市の「御清水」、上中町の「瓜割ノ瀧」も選ばれている。長野県もまた名水が多い。豊科町の「安曇野わさび田湧水群」は、日量70万m<sup>3</sup>の豊かな水でわさびが栽培されている。松川流域に湧く飯田市の「猿庫の泉」は江戸期の茶人・不藏竜溪が探してたという。大桑村の「阿寺川」の水で顔を洗うと美人になるといふ。白馬村の「姫川源流湧水」は、湧水の辺に福寿草や片栗やバイカモが咲く桃源郷の地である。「水神信仰と八方池への雨乞い」などを綴るのは、関川姫川水百選選定委員会編「川は生きているー関川姫川水百選」(北陸建設弘済会 1996)である。山梨県では、富士山の万年雪が伏流水となって湧く忍野村の「忍野八海」。日量23万m<sup>3</sup>の清浄な水である。白州町の「白州・尾白川」は、釜無川に合流する14kmの河川。尾白溪谷、千ヶ淵、旭滝、百合ヶ淵と名所が続く。長坂町、小淵沢町の「八ヶ岳南麓高原湧水群」は3カ所の湧水をつくり出す。その一つの「三分一湧水」は三角石柱で流れを分け、三つの村に等しく配水している。この地を治めた武田信玄による分水方法といわれる。

岐阜県は海がなく山水に恵まれている。美濃市の長良川中流域では、鶴飼が行なわれる。養老町に行幸した元正天皇は、万病に効き若返りの水「養老の滝・菊水泉」に因み年号を養老に改めた。泉はミネラルを含む良質の水のため、江戸期に薬湯、明治期に炭酸水に使用された。至るところから水音が聞こえる郡上八幡

